

第二十一回

能尚会

卷

能絹

小早川泰輝

武田宗史

言

山本泰太郎

狂

文山立

野

宮仕

舞

觀世清和

蝉

丸

武田祥照

武田尚浩

平成二十七年七月十九日（日）

開場 午後一時
開演 午後一時三十分

於 喜多六平太記念能楽堂

電話〇三（三四九一）八八一三

東京都品川区上大崎四一六一九

番組

能

ツレ 小早川 泰輝
シテ 武田 崇史

絹

ワキ 大日方 寛	大鼓 柿原 弘和
間 山本 泰太郎	小鼓 森澤 勇司
後見 上田 公威	地謡 武田 角
武田 宗和	坂井 幸二郎
山本 泰太郎	笛 友志 音雅
山本 則重	藤波 浅見 松木
	野村 昌司 千俊
	太鼓林 雄一郎 重好
	一増 隆之 千彦

文山立

狂言

山本 泰太郎

休憩 十五分

山本 則重

野宮

仕舞 能

観世 清和

地謡 清水

関根 岡觀世 知久芳伸義也

ツレ 武田 祥照
シテ 武田 尚浩

ワキ 宝生 欣哉

大鼓 国川
小鼓 観世新九郎 純

笛 杉 信太朗

間 山本 則重
後見 山階彌右衛門
木月 孝行
坂井口 武田 坂井
音隆 文志 小早川
岡野 村 武田 久四郎
久広 志房 修
貴信 音晴也

附祝言

(公演中の無断撮影・録音は、固くお断り致します。)

蟬

ワキ 武田 祥照
シテ 武田 尚浩

間 山本 則重

後見 山階彌右衛門
木月 孝行

坂井口 武田 坂井
音隆 文志 小早川
岡野 村 武田 久四郎
久広 志房 修
貴信 音晴也

(終了予定 午後五時頃)

蟬丸（せみまる）

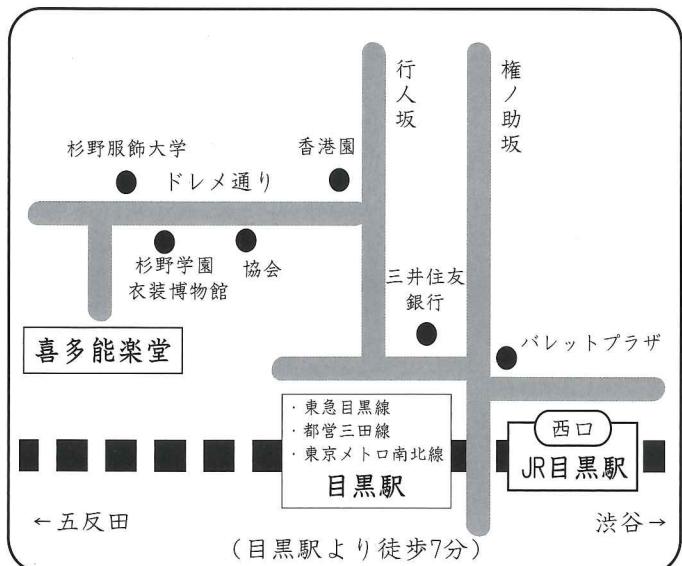
清貫（ワキ）は帝の命を受け、醍醐天皇第四皇子蟬丸（ツレ）を逢坂山に捨てるために蟬丸の供をして逢坂山に向かう。蟬丸は幼少より盲目のため、帝は蟬丸の後世を救うため、このような命を下した。蟬丸も帝の慈悲を理解し、清貫を説き伏せ、剃髪し出家する。清貫が去り一人残された蟬丸は琵琶を抱き泣き伏す。そこへ博雅の三位（アイ）が現れ、藁屋を作り蟬丸を住ませる。一方、醍醐天皇第三皇女逆髮（シテ）は髪が逆さまに生えていたため、心が乱れ狂人となつた。都を出でて逢坂山に来た逆髮は、蟬丸の奏でる琵琶の音を聞き、藁屋を訪ね、姉弟の再会を果たし、互いの身の不幸を嘆く。やがて逆髮は名残は尽きないと言うも旅立ち蟬丸は声が聞こえなくなるまで見送り、涙の別れとなる。

時の帝が靈夢を蒙り、千疋の巻絹を三熊野に納めることになる。勅使（ワキ）は熊野で諸国の絹を集めが、都からの巻絹を奉る男（ツレ）は途中音無の天神へ参詣し、心中密かに一首歌を手向ける。その為、甚だ遅参し、勅使によつて罪に咎められる。そこへ音無天神が乗り移つた巫女（シテ）が現れ、男が手向けた詠歌を愛で、勅使に乞うて許しを得る。巫女は勅使の命により、祝詞をあげ神樂を舞うが次第に神がかりし、やがて本性に立ち戻る。

巻絹（まきぎぬ）

あらすじ

◎事前講座（能、見てみませんか）		◎入場料（消費税込）
七月七日（火）	午後一時半～三時（予定）	正面指定席 10000円
七月十一日（日）	午後二時半～四時半 於 新所沢東公民館	自由席 7000円 学生席 3000円 (三十歳未満／学生証提示)
事前講座代	1000円（割引あり）	



(約一時間四十分程)

主催 武田尚浩

〒176-0025 東京都練馬区中村南二-二九-三
電話 ○三(三九九〇) 二〇四八
E-Mail t.naohiro0321@gmail.com